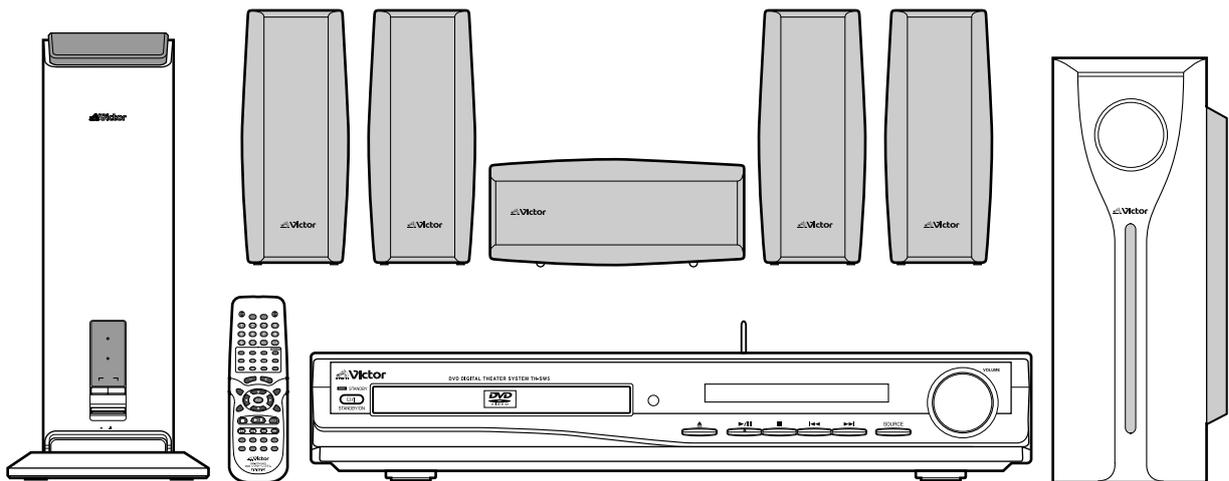
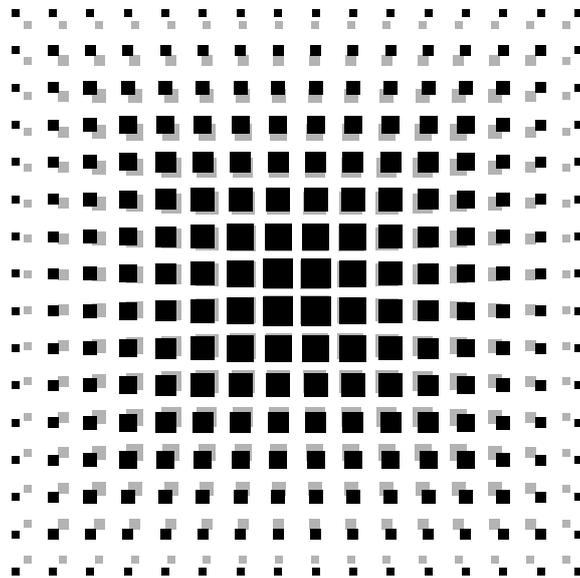
取扱説明書

DVDデジタルシアターシステム

型名 **TH-SW5**

DVD Digital Theater System TH-SW5

システム構成：XV-THSW5
RX-THSW5
SP-THSW5

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に4～6ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

リージョン番号(ローカル番号)について

本システムでは、リージョン番号表示に「ALL」または「2」が含まれるDVDビデオに限り再生することができます。

再生できるリージョン番号表示の例：

ディスクのジャケットもご覧ください。

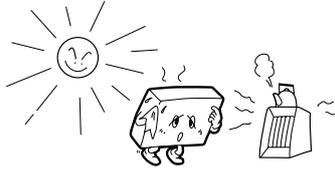
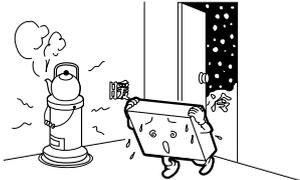
リージョン番号は、国や地域ごとに割り当てられた番号です。

LVT1247-001B

はじめに

本システムの置き場所について

本システムは5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。これを超える温度の環境で使用すると、誤動作したり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・湿気やほこりの多い所

・直射日光が当たる所や暖房器のそば

・寒い所から急に暖かい部屋へ移動したのちしばらくの間

・極端に寒い所

・磁気を発生する所
・振動の激しい所
・OA機器やけい光灯のすぐそば

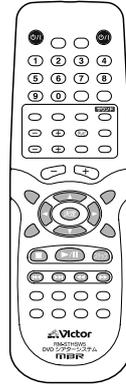
お知らせ *露がついたら*

次のような場合、本機のレンズに露（水滴）が付いてDVDビデオやCDなどが正しく再生できないことがあります。
・暖房を始めた直後
・湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
・冷えた所から急に暖かい部屋に移動したとき
電源を入れたまま、1〜2時間待ってからお使いください。

商標と著作権

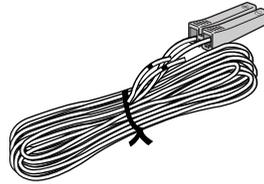
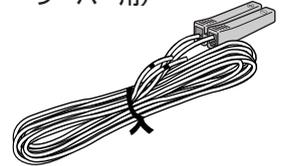
・ディスクを著作権者に無断で複製したり放送、上映、演奏、レンタルすることは、法律により禁止されています。
・DVDロゴは、DVDフォーマットライセンシング株式会社の商標です。
・本システムはコピープロテクション技術が採用されています。このコピープロテクション技術は、マクロビジョン社やそのほか権利者が米国などで特許等の知的財産権を所有しており、この技術を使用する際にはマクロビジョン社のライセンスが必要となります。マクロビジョン社が認めない限り、家庭をはじめとする限られた範囲での視聴目的以外にはこの技術の使用はできません。また、改造または分解、リバースエンジニアリングは禁止されています。

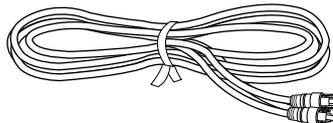
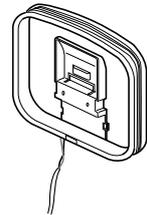
付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。

・ リモコン(RM-STHSW5)（1個）

・ 単3形乾電池（2本）（リモコン動作確認用）

・ スピーカーコード（10m、2束）（リアスピーカー左右用）

・ スピーカーコード（6m、4束）（フロントスピーカー左右、センタースピーカー、サブウーハー用）

・ FM簡易型アンテナ（1本）

・ AMループアンテナ（1個）

・ ビデオコード 長さ約3m（1本）

■ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

もくじ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

• この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

• この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

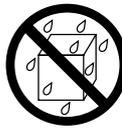
注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

電源プラグを抜く

• 煙が出ている、へんなにおいがするとき
• 内部に水や異物が入ってしまったとき
• 落としたり、破損したとき
• 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

分解禁止

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

風呂場やシャワー室では使用しない。

水場での使用禁止

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

本機の中に物を入れない。

禁止

通風孔やディスク挿入部の穴などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

電源コードを傷つけない。

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

• 電源コードを加工しない
• 電源コードを無理に曲げない
• 電源コードをねじらない
• 電源コードを引っ張らない
• 電源コードを熱器具に近づけない
• 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

一般的指示

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

⚠警告

電源プラグは定期的に清掃する。

一般的指示

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

本機の上に水の入った容器を置かない。

水ぬれ禁止

花びん、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

接触禁止

感電の原因となります。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では火災･感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

禁止

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

禁止

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10cm以上離す
- DVDセンター後面の冷却ファンをふさがない

置き場所に注意する。

次のような所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。

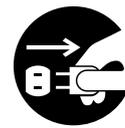
・ 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
・ 湿気やほこりの多い所
・ 熱器具の近くなど高温になる所
・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源プラグを抜く

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ディスク挿入時に、手を挟まれないようにする。

閉まるときにディスクトレイに手を挟まれ、けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

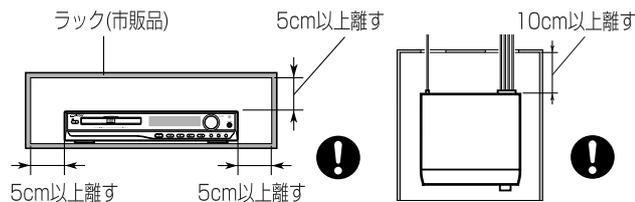
電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

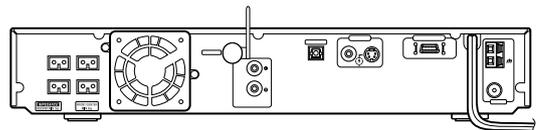
- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)を間違えない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご注意

- 本システムのDVDセンターは、使用状態により本体の温度が上昇することがあります。下図のような放熱空間を確保してください。
- ラックの後面のコード引出し口はできるだけ大きくして、通気を良くしてください。

- ワイヤレス受信機を設置する際も、後面の通風孔をふさがないようにしてください。

お知らせ　*冷却ファンについて*

DVDセンター後面には冷却ファンが搭載されています。
冷却ファンは、DVDセンター内が高温になると、自動的に作動します。
- 冷却ファンの周囲にものをおかないでください。
- スピーカーコードが冷却ファンに触れないようにしてください。

ディスクについて

本システムで再生できるディスク

本システムで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類とマーク	記録内容	ディスクの大きさ
DVDビデオ	音楽＋映像	12センチと8センチ
スーパービデオCD/ビデオCD		
オーディオCD	音楽	

次のディスクも再生することができます。

ディスクの種類	記録形式
DVD-R DVD-RW	・DVDビデオフォーマット （ファイナライズ処理されたもの）
CD-R CD-RW	・ビデオCD/スーパービデオCDフォーマット ・オーディオCDフォーマット （ファイナライズ処理されたもの） ・ISO 9660レベル1または2 （ファイナライズ処理されたもの）

ご注意

- DVD-R/-RWやCD-R/RWディスクをお使いのときは、ディスクに付属の取扱説明書をご覧ください。
- CD-RWディスクは、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ディスクにテープやシールなどを張ったり、字を書いたりしないでください。
- ディスクの傷、汚れや反り、またはディスクの特性、記録状態、書込みソフトによっては、再生に時間がかかったり、再生できないことがあります。
- ひび割れ、変形または接着剤などで補修した壊れたディスクや、ハート型や八角形など、特殊形状のディスク（シェイプCDなど）は再生できません。
- 次のディスクは音声のみ再生することができます。
  CD-G（グラフィック）、CD-EXTRA（エクストラ）、CD TEXT（テキスト）、およびMIX-MODE CD

お知らせ　*DVDビデオやビデオCDについて*

- 本システムは、DVDビデオおよびビデオCD製作者が意図したディスク内容にしたがって再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。
  このようなときは、テレビ画面に「✋」が表示されますが、表示されないときもありますのでご注意ください。
- DVDビデオの2層ディスクの場合、1層目から2層目に切り換わるとき、音声や映像が乱れることがありますが、これは故障ではありません。
- 本システムのテレビ方式はNTSC方式です。

お知らせ　*コピーガード対応CDについて*

- 本システムでは、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。
- CDを再生する際には、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。

お知らせ　*記録形式について*

- 本システムは最大99までのマルチセッションに対応しています。
- 次の記録形式で記録されたディスクは再生できません。
  –VR（ビデオレコーディング）フォーマット
  –パケットライト記録

再生できないディスク

次のディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。

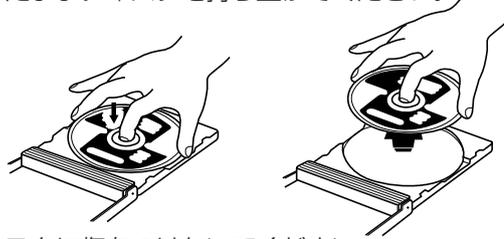
・DVDオーディオ　・DVD-ROM　・DVD-RAM
・VRフォーマットで記録したDVD-RW　・CD-ROM
・SACD　・フォトCD

再生できないディスクを再生しようとすると、ディスクを読み込んだ後でディスクトレイが開きます。

ディスク使用上のご注意・お手入れ

取り扱い時の注意

ディスクを取り扱う際、以下のことに注意してください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押したままディスクを持ち上げてください。

- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（文字の書かれていない面）を汚したり、ラベル面（文字の書かれている面）に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 暖房器のそばや車の中など

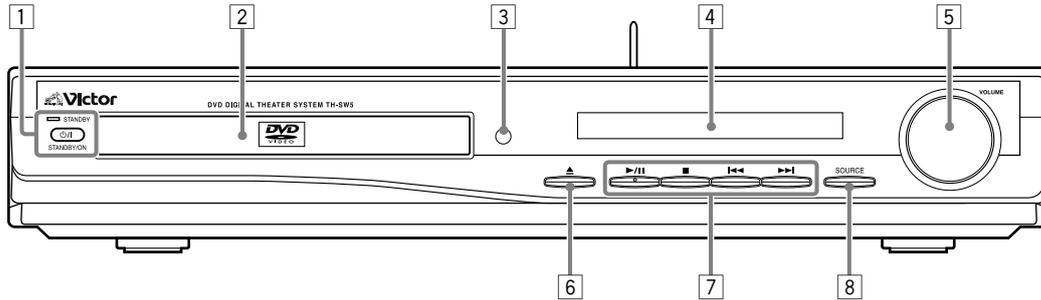
ディスクのクリーニング

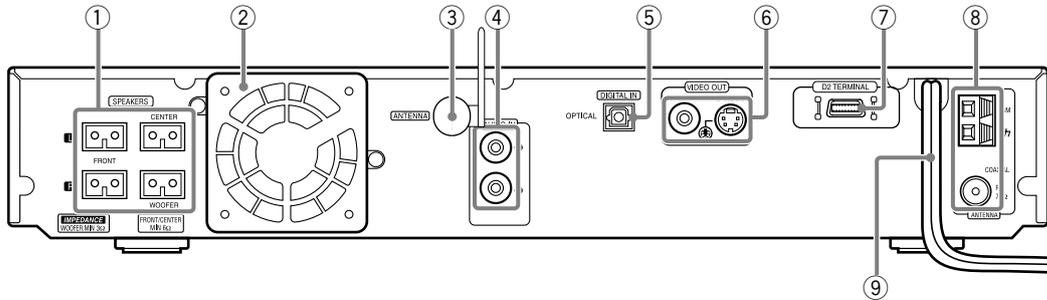
- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外側に向かって軽くふいてください。ディスクの円周方向にはふかないでください。

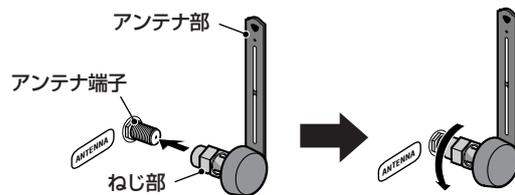
- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、ディスクのクリーニングには使用しないでください。

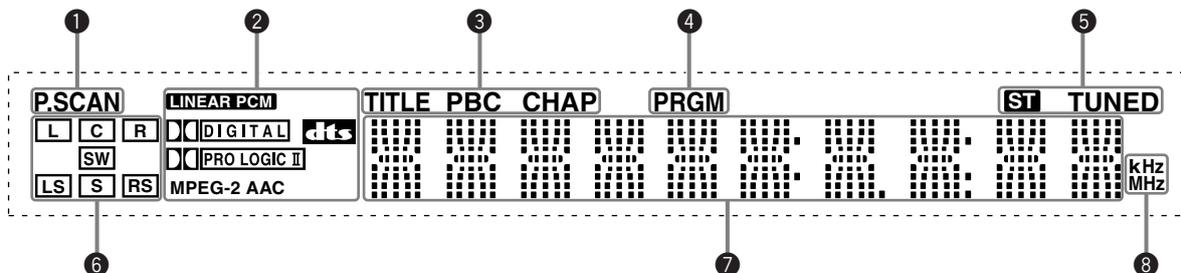
各部の名前　—( )内のページに説明があります。—

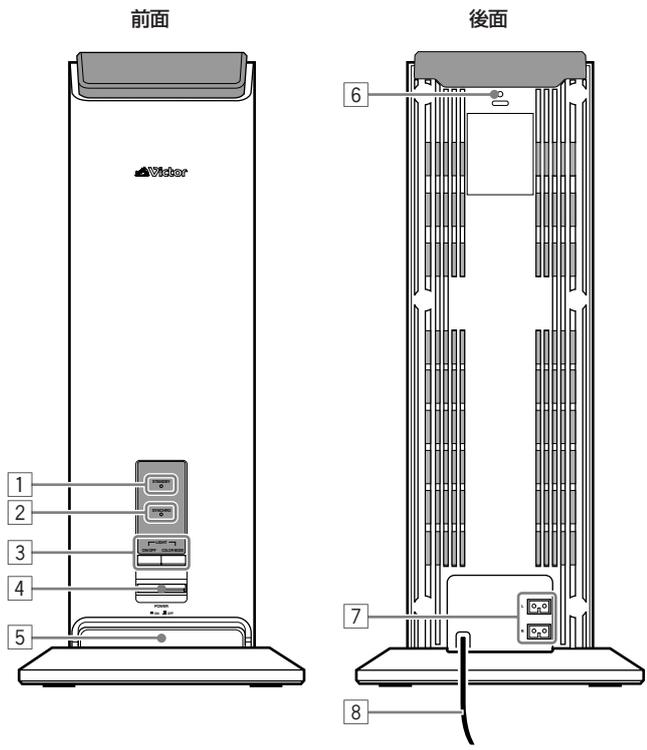
DVDセンター(XV-THSW5)

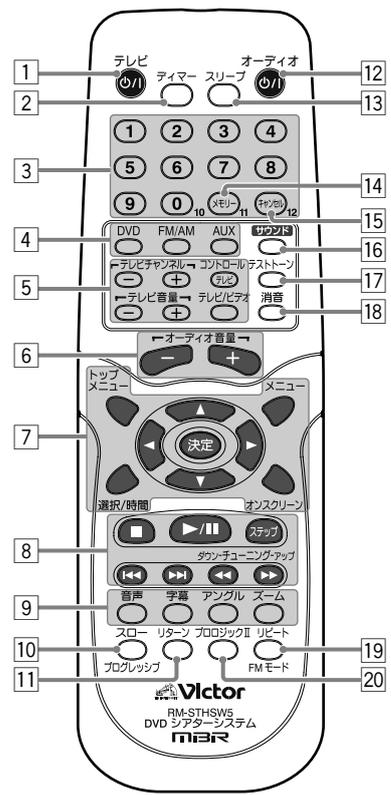
前面

1 ⏻/I STANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンとSTANDBYランプ(*15*)
2 ディスクトレイ(*15*)
3 リモコン受光部(*12*)
4 表示窓
5 VOLUME（ボリューム）調節つまみ(*15*)
6 ⏏(開/閉)ボタン(*15*)
7 操作ボタン
8 SOURCE（ソース）ボタン(*15*)

後面

① スピーカー端子(FRONT（フロント）、CENTER（センター）、WOOFER（ウーハー）)(*10*)
② 冷却ファン(*6*)
③ ワイヤレス通信アンテナ
④ 音声入力端子(AUDIO（オーディオ） IN（イン）)(*11*)
⑤ 光デジタル入力端子(DIGITAL（デジタル） IN（イン） OPTICAL（オプティカル）)(*11*)
⑥ 映像出力端子(ビデオ、S-VIDEO（ビデオ）)(*11*)
⑦ D2映像出力端子(*11*)
⑧ AM/FMアンテナ端子(*11*、*12*)
⑨ 電源コード(*12*)

ワイヤレス通信用アンテナが外れたときは
下図のようにワイヤレス通信用アンテナ端子に取り付けます。

アンテナを端子に差し込み、ねじ部を回します。
・アンテナ部は垂直に立つように固定して、お使いください。

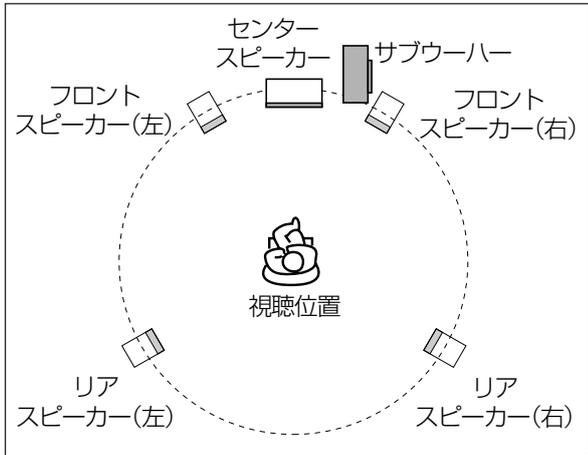
表示窓

❶ プログレッシブ表示(P.SCAN（スキャン）)(*13*)
❷ 音声フォーマット表示(*23*)
❸ ディスク再生表示(TITLE（タイトル）、PBC、CHAP（チャプター）)
❹ プログラム表示(PRGM)(*22*)
❺ ラジオ音声表示(ST、TUNED（チューンド）)(*22*)
❻ スピーカー表示(L、C、R、SW、LS、S、RS)
❼ 文字表示部
❽ 周波数表示(kHz、MHz)

ワイヤレス受信機(RX-THSW5)

1 STANDBY(スタンバイ)ランプ(*14*)
2 SYNCHRO(シンクロ)ランプ(*14*)
3 イルミネーション調節ボタン(*14*)
4 電源ボタン(POWER)(*14*)
5 イルミネーションランプ(*14*)
6 リセットスイッチ(内部)(*14*)
7 リアスピーカー端子(*10*)
8 電源コード(*12*)

リモコン(RM-STHSW5)

1 テレビ⏻/Iボタン(*13*)
2 ディマーボタン(*15*)
3 数字ボタン(1〜9、0、10、11、12)
4 ソース選択ボタン(DVD、FM/AM、AUX)(*15*)
5 テレビ操作ボタン(テレビチャンネル+/−、テレビ音量+/−、コントロールテレビ、テレビ/ビデオ)(*13*)
6 オーディオ音量+/−ボタン(*15*)
7 メニュー操作ボタン(トップメニュー、メニュー、選択/時間、オンスクリーン、▲、▼、►、◄、決定)
8 ディスク操作ボタン(■、►/II、ステップ、►►I、I◄◄、►►、◄◄)チューニングボタン(アップ、ダウン)(*22*)
9 DVD操作ボタン(音声、字幕、アングル、ズーム)(*16*、*17*)
10 スローボタン(*17*)
プログレッシブボタン(*13*)
11 リターンボタン(*18*)
12 オーディオ⏻/Iボタン(*15*)
13 スリープボタン(*15*)
14 メモリーボタン(*22*)
15 キャンセルボタン
16 サウンドボタン(*24*)
17 テストトーンボタン(*24*)
18 消音ボタン(*15*)
19 リピートボタン(*17*)
FMモードボタン(*22*)
20 プロロジックIIボタン(*23*)

スピーカーを接続する

スピーカーを配置する

本システムのサラウンド音声を効果的にお楽しみいただくために、下の配置例を参考にしてスピーカーを配置してください。

■ 配置のポイント

- フロントスピーカー(左右)とリアスピーカー(左右)には、区別がありません。
- 全てのスピーカーは、視聴位置から等距離に配置するのが理想的です。等距離に配置できないときは、「スピーカー音量を調節する」の「遅延設定」で調節することができます。(➡ **24**ページ)
- センタースピーカーはテレビ画面の近くに配置します。テレビの上には置かないでください。
- リアスピーカーは、やや後方に設置します。

お知らせ *スピーカーの配置について*

- サラウンドの効果はスピーカーの向きや高さによっても変わります。実際の音声を聞きながら調節してください。
- 本システムの各スピーカーは防磁設計(JEITA仕様)ですが、配置によってはテレビ画面に色ムラが生じることがあります。次の点に注意して配置してください。
  1. テレビの近くに配置するときは、必ずテレビの主電源を「切」にしてください。配置後は、30分程度待ってからテレビの主電源を「入」にしてください。
  2. テレビの種類によって万一、色ムラが生じたときは、スピーカーをテレビから10cm以上離して設置してください。

ご注意

- スピーカーは平らな場所に設置してください。
- DVDセンター後面の冷却ファンをスピーカーコードなどでふさがないようにしてください。
- スピーカーを壁に掛けてお使いのときは、以下のことに注意ください。

⚠ 重要注意事項:

ブラケット金具(市販品)を柱などに固定する木ネジ(長さ20mm〜25mm、直径3mm)は、十分に強度の得られるものをお客様でご用意ください。

強度や取り付けが不十分の場合、落下により人に被害を及ぼしたり、使用している機器などを損傷する恐れがあります。

ベニヤ板でできている壁やボード板などで強度が弱い場合は、必ず取り付け部を補強してください。

壁の強度など、お客様で判断できないときは、必ずお買い上げの販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

⚠ 取り付け位置に関する注意:

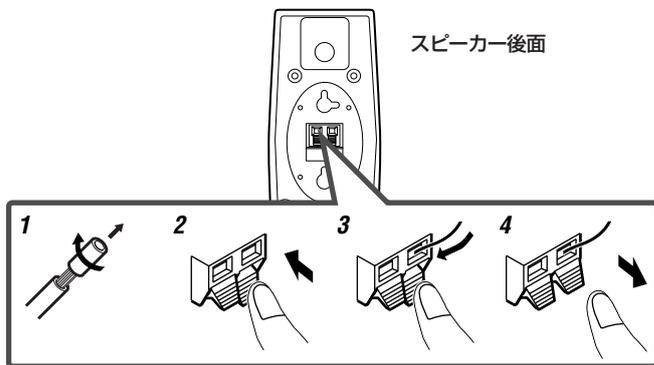
スピーカーを壁に取り付けるときは、取り付ける位置に十分考慮してください。

日常生活で邪魔になる位置や体、頭のぶつかりやすい位置などに取り付けると、けがや器物の破損を招く原因となります。

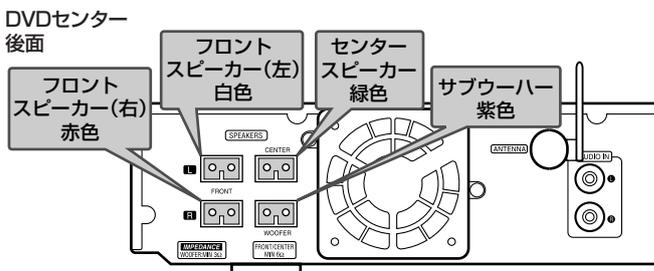
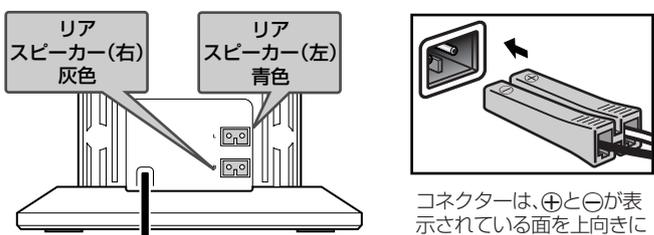
スピーカーを接続する

フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サブウーハーをDVDセンターのスピーカー端子(SPEAKERS)に、リアスピーカー(左右)をワイヤレス受信機のリアスピーカー端子(REAR SPEAKERS)に、端子の色が合うように接続します。

■ スピーカーにスピーカーコードを接続する

フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、リアスピーカー(左右)後面の端子にスピーカーコードを接続します。

- **灰色のビニールのついたコード**を灰色の端子(⊕)に、**黒色のビニールのついたコード**を黒色の端子(⊖)につながないでください。
- スピーカーコードの接続を間違えると、ステレオ感や音質が損なわれます。
- スピーカー端子の⊕と⊖をショートさせないでください。故障の原因となります。
- 付属のスピーカーと他のスピーカーとを一緒に接続しないでください。負荷インピーダンスが変わり、故障の原因となります。
- 複数のコードを１つの端子につながないでください。

■ DVDセンターとワイヤレス受信機に各スピーカーコードを接続する

端子の形状に注意してコネクターを差し込みます。

ワイヤレス受信機後面

コネクターは、⊕と⊖が表示されている面を上向きにして「差し込みます。

お知らせ *ワイヤレス受信機の設置場所について*

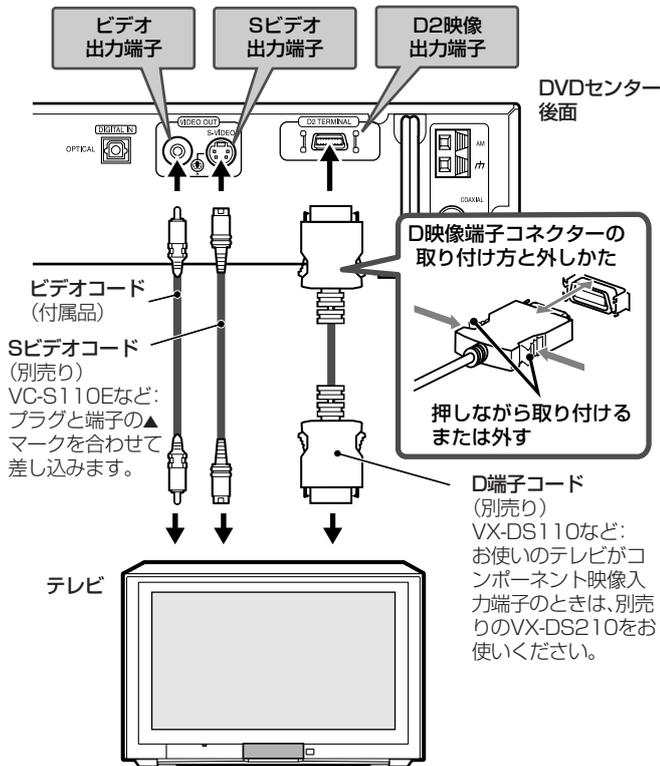
- ワイヤレス受信機はDVDセンターの近くに置くと、電波が強すぎて動作が不安定になることがあります。DVDセンターから1m以上離れた場所に設置してください。
- ワイヤレス受信機は、DVDセンターから10m以内で、間にスチールの本棚などの干渉物がないように置くのが理想的です。また、付近に電子レンジ、無線LANカード、ブルートゥース機器などがあるとノイズや音とびの原因となります。

ご注意

ワイヤレス受信機は平らな場所に設置してください。

テレビを接続する

DVDセンターの映像出力端子またはD2映像出力端子とテレビを接続します。

- 画質は次の順序でよくなります。
  ビデオコード ＜ Sビデオコード ＜ D端子コード
- テレビの取扱説明書もご覧ください。
- プログレッシブ映像(➡ 13ページ)をお楽しみいただくには、D2映像出力端子での接続が必要です。

お知らせ *テレビの接続について*

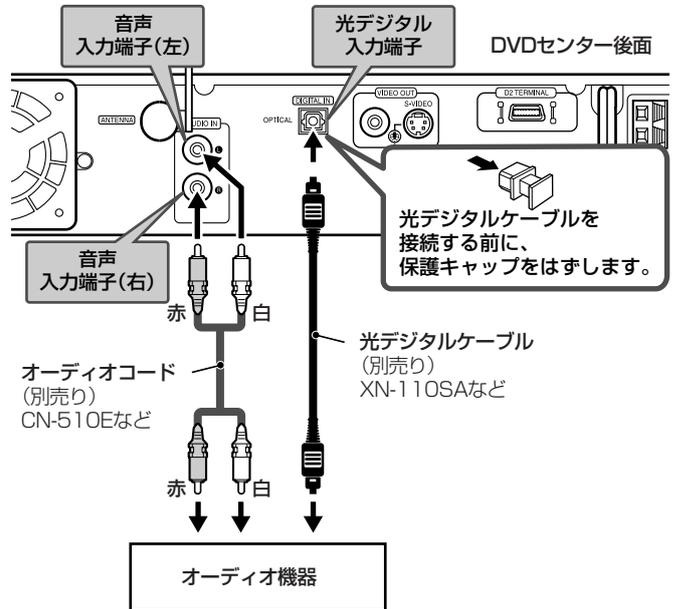
- テレビの代わりにモニターやプロジェクターにも接続できます。
- DVDセンターの映像出力は直接テレビに接続してください。ビデオデッキを経由してつないだり、ビデオデッキ一体型テレビとつないだりすると、コピー防止システムのため再生中に映像が乱れることがあります。

お知らせ *D2映像端子について*

- ハイビジョンの端子とは接続しないでください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- お使いのテレビによっては、画面サイズの自動切り換えなどの一部の機能が正しく働かないことがあります。
- プログレッシブ映像をお楽しみいただくには、お使いのテレビもプログレッシブ映像入力に対応している必要があります。お使いのテレビのD映像端子が「D1」端子のときはプログレッシブ映像はお楽しみいただけません。

オーディオ機器を接続する

DVDセンターの音声入力端子または光デジタル入力端子とオーディオ機器を接続します。

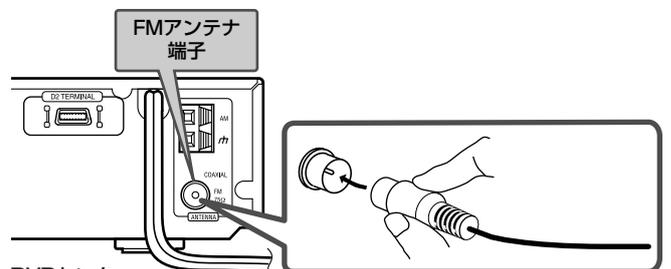
- テレビ、ビデオデッキ、BSデジタルチューナーなどのビデオ機器の音声を本システムで聞くこともできます。
- 接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

お知らせ *ビデオ機器の音声接続について*

ビデオデッキなどビデオ機器の映像を見るには、ビデオ機器の映像出力端子とテレビの映像出力端子を直接つないでください。音声は本システムで選び、映像はテレビで選びます。

ラジオのアンテナを接続する

FMアンテナを接続する

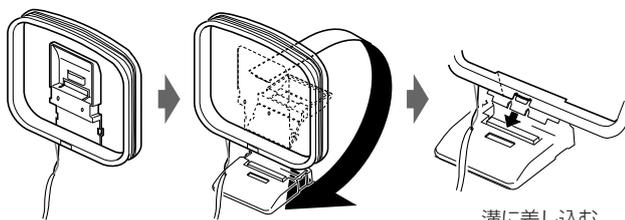
■ FM簡易型アンテナを接続する

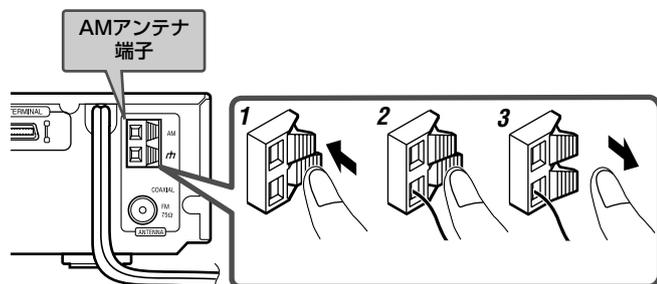
簡易型アンテナは、つないだ後でピンと伸ばし放送局の受信状態が最も良い位置にテープなどで固定します。

■ FM屋外アンテナやマンションの壁などの共聴アンテナ端子に接続する

同軸ケーブル(市販)とアンテナコネクター(別売り)を準備します。

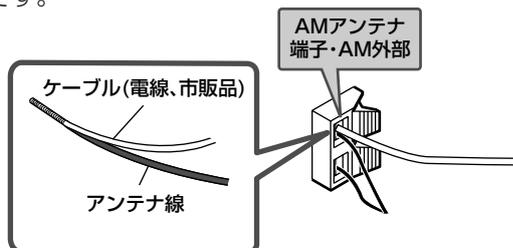
ラジオのアンテナを接続する(つづき)

AMアンテナを接続する

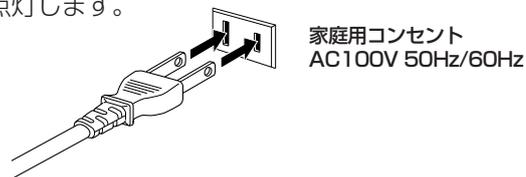
■ AMループアンテナ(付属品)を組み立てる

■ アンテナ線をDVDセンター後面のAMアンテナ端子につなぐ

接続が終わったら、AMループアンテナの向きを変えて、放送局の受信状態が最も良い位置を探します。

■ AMループアンテナでうまく受信できないとき

ケーブル(電線)をAMアンテナ端子の「AM」側に接続します。このとき、AMループアンテナも接続したままにしておいてください。

ケーブルは、窓際や屋外にできるだけ高く水平に張ると効果的です。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、DVDセンターとワイヤレス受信機の電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

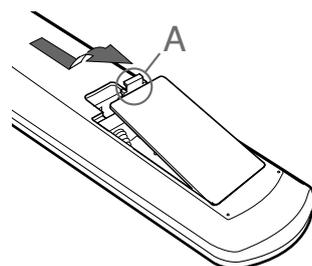
電源コードを接続すると、DVDセンターのSTANDBYランプが点灯します。

ご注意

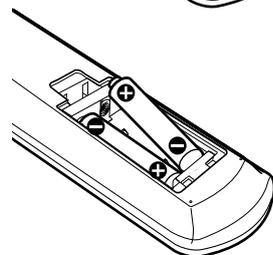
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードに触れないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

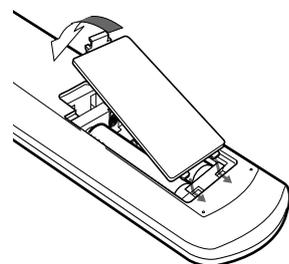
リモコンを準備する

単3形の乾電池を入れます。

1 裏ブタをはずす

A部につめをかけ、矢印の方向へ引き上げます。

2 単3形乾電池を2本入れる

リモコン内部の表示に合わせ、極性(⊕、⊖)を正しく入れます。

3 裏ブタをしめる

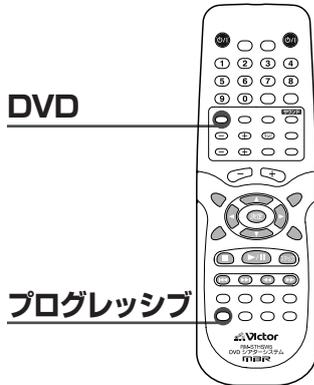
矢印の方向に戻します。

お知らせ *リモコンについて*

- リモコンの先端をDVDセンターのリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物などがあると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、DVDセンターに近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。
- 指定以外の電池(充電式電池など)は使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

DVDセンターとリモコンの設定

スキャンモードを設定する

プログレッシブ対応テレビと本システムをD映像端子で接続したときは、プログレッシブ映像でお楽しみいただけます。

- 接続について詳しくは、「テレビを接続する」(➡ **11**ページ)をご覧ください。
- お買い上げ時のスキャンモードは「インターレース」です。

リモコンで操作します。

1 DVDを押す

DVDセンターの電源が「入」になり、表示窓に「DVD/CD」と表示されます。

- ディスクの再生が始まったときは、■(停止)を押してください。
- ワイヤレス受信機の電源が「切」のとき、「REAR CHK」と表示されることがあります。詳しくは、**14**ページをご覧ください。

2 プログレッシブを1秒以上押す

DVDセンターの表示窓に**P.SCAN**表示が点灯し、スキャンモードが「プログレッシブ」になります。

P.SCAN表示

P.SCAN NO DISC

「インターレース」に戻すには

プログレッシブボタンを1秒以上押します。
表示窓の**P.SCAN**表示が消灯します。

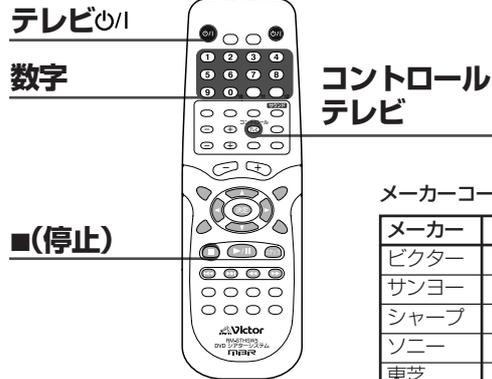
お知らせ *プログレッシブスキャンについて*

- ビクター製以外のプログレッシブ対応テレビの中には、本システムのプログレッシブスキャンに適合しないものがあります。テレビの映像が不自然に映るときは、スキャンモードを「インターレース」にしてください。
- **プログレッシブ映像出力の著作権保護信号について**
  本機のプログレッシブ映像出力(525p)には著作権保護信号が付加されていることがあります。この信号に対応していないテレビ、モニターでは映像が乱れることがあります。このようなときは、スキャンモードを「インターレース」にしてお使いください。
  ビクター製のテレビでは、HD-32LS3やAV-32AD3などが著作権保護信号に対応しています。詳しくは「お客様ご相談センター」にお問い合わせください。

リモコンでテレビを操作する

本システムのリモコンを使って、ビクター製テレビや他メーカーのテレビを操作することができます。

メーカーコードを設定する

他メーカーのテレビを操作するときは、メーカーに対応したコードを設定する必要があります。
ビクター製テレビは、お買い上げ時のままで操作することができます。

メーカーコード表

メーカー	コード番号
ビクター	01、51
サンヨー	58、59
シャープ	60
ソニー	55
東芝	57
日立	56
松下	04、11、52、53
三菱	54

リモコンで操作します。

1 コントロールテレビを押す

リモコンがテレビ操作モードになります。

2 テレビ⏻/Iを押し続ける

- 手順**4**で■(停止)を押すまで、押し続けます。

3 数字ボタン(1～9、0)でメーカーコード番号を入力する

例: 松下「04」のとき
　数字ボタンを**0➡4**と押します。

4 ■(停止)を押す

このあと、**テレビ⏻/I**から指を離します。
これでメーカーコードの設定は終わりです。

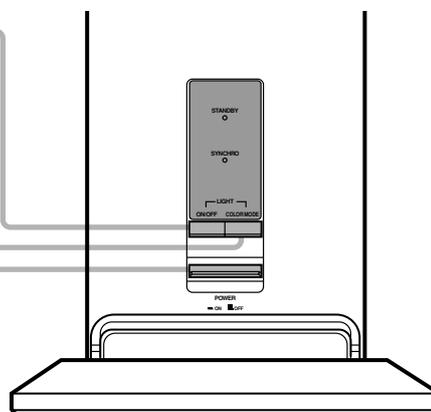
テレビを操作する

次のボタンを使ってテレビを操作することができます。
リモコンはテレビに向けてお使いください。

操作ができないときは、もう一度メーカーコードを設定し直してください。

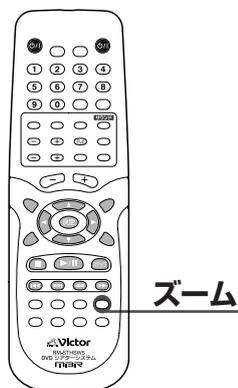
- 複数のコード番号があるメーカーについては、別の番号も入力してみてください。
- メーカーコードは、予告なしに変更することがあります。また、メーカーによっては、メーカーコード番号を正しく入力しても、操作できない場合があります。

ワイヤレス受信機を使う

リアスピーカーから音声を聞くためには、ワイヤレス受信機の**SYNCHRO**ランプが点灯している必要があります。
DVDセンターとワイヤレス受信機の電源を「入」にしても**SYNCHRO**ランプが点灯しないときは、下の「ワイヤレス受信機をリセットする」をご覧ください。

・DVDセンターの電源を「入」にしたとき、ワイヤレス受信機との通信がうまく行かないと、表示窓に「REAR CHK」が点滅表示されます。このようなときは、ワイヤレス受信機の電源を「入」にしてください。

・リアスピーカーを使わないときは、ワイヤレス受信機の電源を「入」にする必要はありません。

ワイヤレス受信機をリセットする

DVDセンターとワイヤレス受信機の電源を「入」にしても、**SYNCHRO**ランプが点灯しないときは、次の手順でワイヤレス受信機をリセットします。

1 DVDセンターの電源を「切」にする

ワイヤレス受信機の電源は「入」のままにしておきます。

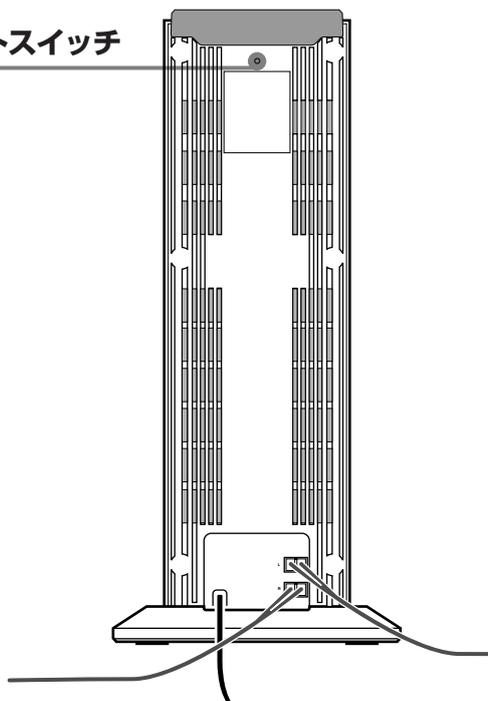
2 リモコンのズームを4秒以上押し続ける

DVDセンターの**STANDBY**ランプが1回点滅し内部で「カチッ」と音がして、リセットモードになります。

3 ワイヤレス受信機後面のリセットスイッチを2、3回おす

・つまようじなど先の細いもので軽く押してください。

4 DVDセンターの電源を「入」にする

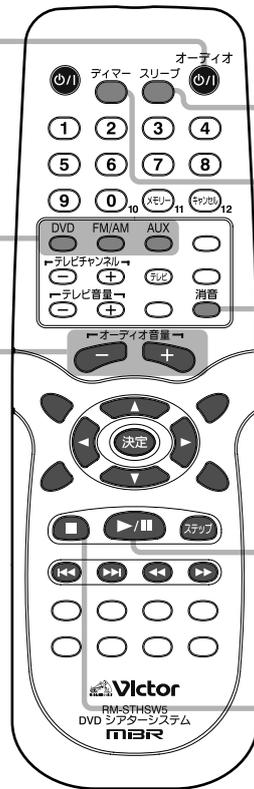
・ワイヤレス受信機の**SYNCHRO**ランプが点灯すれば、リセットは成功です。

リモコンから操作する

DVDセンターの電源を「入/切」します。

ソース(音源)を選びます。
DVDセンターの電源を「入」にすることもできます。
- ディスクを再生するとき➡DVDボタン
- ラジオを聞くとき ➡FM/AMボタン
- 外部機器を聞くとき ➡AUXボタン

お知らせ *ソース選択ボタンについて*

- FM/AMを押すと、ラジオのバンドが「FM」⇔「AM」と切り換わります。
- AUXを押すと、外部入力機器のアナログ音声(「AUX」)/デジタル音声(「AUX DIGITAL」)が切り換わります。
- 外部入力機器の音声を選ぶ前に、外部入力機器の電源は入れておいてください。

音量を調節します。
音量は0(MIN)〜50(MAX)の範囲で調節できます。

おやすみタイマーを設定します。
設定した時間が経過するとDVDセンターの電源が「切」になります。
ボタン押すごとに、設定時間が変わります。

お知らせ *タイマーを解除するには*

タイマーを途中で解除するときは「OFF」を選びます。

表示窓の明るさを調節します。
ボタン押すごとに、明るさが変わります。

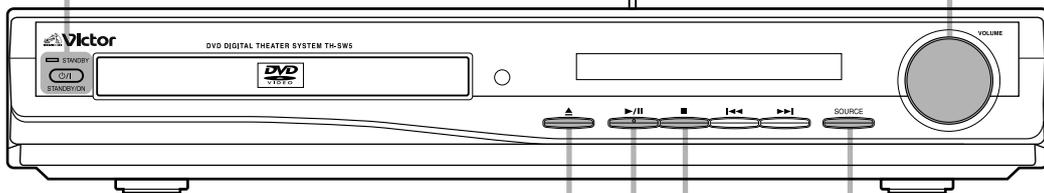
一時的に音を消します。
もう一度押すと元の音量に戻ります。

ディスクの再生を始めます。
- 再生中に押すと一時停止します。もう一度押すと再生が始まります。

再生を止めます。

DVDセンターから操作する

DVDセンターの電源を「入/切」します。
電源を「切」にすると、**STANDBY**ランプが点灯します。

音量を調節します。
音量は0(MIN)〜50(MAX)の範囲で調節できます。
右に回すと音量が大きくなります。

ディスクトレイを開閉します。
DVDセンターの電源を「入」にすることもできます。
ディスクは、再生したい面を下にして溝に沿って置きます。

お知らせ *ディスクトレイについて*

- 8cmディスクは、内側の溝に合わせて置きます。
- DVDセンターの電源が「切」のとき、SOURCEを5秒以上押し続けるとディスクトレイを開かないようにすることができます(チャイルドロック)。
  元に戻すには、もう一度同じ操作をします。
- ディスクトレイを開けたままにしておくと、約5分後にトレイが自動で閉まります。また、ソース(音源)が「DVD/CD」で、ディスクの再生が停止して(ディスクが入っていないときも同様)20分すると節電のため電源が「切」になります。

ソース(音源)を選びます。
ボタンを押すごとに、ソース(音源)が切り換わり、表示窓に表示されます。

再生を止めます。

ディスクの再生を始めます。
DVDセンターの電源を「入」にすることもできます。
- 再生中に押すと一時停止します。もう一度押すと再生が始まります。

DVDプレーヤーの簡単操作

DVDプレーヤーの操作の中には、ディスクの種類によっては、操作ができないものもあります。
本取扱説明書では操作ごとに、次のようなアイコンを使って、操作ができるディスクをお知らせします。

スーパービデオCD
CD VCD SVCD DVD
ビデオCD　DVDビデオ

VCD PBC：ビデオCDでPBC機能が必要なとき
SVCD PBC：スーパービデオCDでPBC機能が必要なとき

MP3/JPEGディスクの操作については、**20**、**21**ページをご覧ください。

本システムにはスクリーンセーバー機能があります。静止画（メニュー画面も含む）を映したままにすると、テレビ画面が一時的に暗くなります。

音声・字幕・アングルを選ぶ

複数の音声、字幕、アングルが収録されているディスクを再生しているときに操作します。音声、字幕、アングルについてはディスクのジャケットなどで確認してください。

再生中に　SVCD DVD

音声、字幕またはアングル*を押す

- ボタンを押すごとに音声/字幕/アングル*がそれぞれ切り換わります。
- CD/VCD/SVCDの再生中に**音声**を押すと、左音声(L)/右音声(R)/ステレオ音声を切り換えることができます。
- SVCDで、映画などの音声言語を切り換えるときは、オンスクリーンバーをお使いください。（➡ **18** ページ）

*アングルはDVDビデオのみの機能です。

お知らせ　*ディスクの収録情報について*

本システムでディスクの音声や字幕などの収録情報を確認することができます。詳しくは「オンスクリーンバーを使う」（➡ **18**ページをご覧ください。

再生経過時間を確認する

ディスクの再生中に再生経過時間や残りの再生時間を知ることができます。

再生中に　CD VCD SVCD DVD

選択/時間を押す

テレビ画面に時間表示が表示されます。
- ボタンを押すごとに次のように表示が切り換わります。

DVDのとき
- CHAPTER ELAPSED ：チャプターの再生経過時間
- ↓ CHAPTER REMAIN ：チャプターの残り再生時間
- ↓ TITLE ELAPSED ：タイトルの再生経過時間
- ↓ TITLE REMAIN ：タイトルの残り再生時間

CD/VCD/SVCDのとき
- TRACK ELAPSED ：トラックの再生経過時間
- ↓ TRACK REMAIN ：トラックの残り再生時間
- ↓ TOTAL ELAPSED ：ディスクの再生経過時間
- ↓ TOTAL REMAIN ：ディスクの残り再生時間

見たい・聞きたい場所を探す

トラック/チャプターを選ぶ

再生中に　CD VCD SVCD DVD

►►IまたはI◄◄をくり返し押す

►►I：次のトラック/チャプターの頭に移動します。
I◄◄：前または今のトラック/チャプターの頭に移動します。
- VCDのトラックが15分以上のときは、同じトラック内で前後に約5分ずつ移動します。

リモコンの**数字**ボタン（1〜9、0）でもトラックを選ぶことができます。

CD：停止中または再生中に　CD VCD SVCD
VCD/SVCD：停止中またはPBC機能OFFで再生中に

1 数字ボタン（1〜9、0）を押す

テレビ画面上に「SELECT」が表示されます。
トラック「5」を選ぶときは、**5**を押します。
トラック「10」を選ぶときは、**1➡0**を押します。
トラック「25」を選ぶときは、**2➡5**を押します。

2 決定を押す

選んだトラックから再生が始まります。
- **決定**を押さなくても約5秒後に再生が始まります。

早送り/早戻し再生をする

2倍、4倍、8倍、32倍速で、早送り/早戻し再生をします。
- CDの早送り2倍速再生のときは音声も聞くことができます。

再生中または一時停止中に　CD VCD SVCD DVD

►►（早送り）または◄◄（早戻し）を押す

テレビ画面に「FF（早送り）」または「FR（早戻し）」と再生の速さが表示されます。
- ボタンを押すごとに、早戻し/早送り再生の速さが切り換わります。
- 表示される速さは目安です。

通常の再生に戻すには
▶/IIを押します。

いろいろな再生をする

コマ送りをする

再生中に　CD VCD SVCD DVD

ステップを押す

再生が一時停止し、テレビ画面に「STEP」と表示されます。
・ボタンを押すごとに、画面が少しずつ進みます(コマ送り)。

通常の再生に戻すには
▶/IIを押します。

スロー再生をする

DVDのときは1/2倍、1/4倍、1/8倍で、VCD/SVCDのときは1/2倍、1/4倍、1/6倍の速さで、スロー再生ができます。
・DVDのときは逆転スロー再生もできます。

再生中に　CD VCD SVCD DVD

スローを押す

再生が一時停止し、テレビ画面に「SF(スロー)」または「SR(逆転スロー)」とスロー再生の速さが表示されます。
・ボタンを押すごとに、スロー再生の速さが切り換わります。

通常の再生に戻すには
▶/IIを押します。

画面を拡大する

再生中の画面を1.5倍、2倍、3倍の大きさで拡大することができます。拡大する部分を選ぶこともできます。

再生中に　CD VCD SVCD DVD

1 ズームを押す

テレビ画面に「SELECT ZOOM POSITION」と表示されます。

2 ▲、▼、▶、◀で拡大したい部分を選ぶ

・「+×」を拡大させたい場所に合わせます。

3 決定をくり返し押して倍率を選ぶ

・ボタンを押すごとに、倍率が次のように切り換わります。

1.5倍 ➜ 2倍 ➜ 3倍 ➜ 2倍 ➜ 1.5倍 ➜ OFF

通常の再生に戻すには
ズームをくり返し押して「OFF」を選びます。

くり返し再生をする

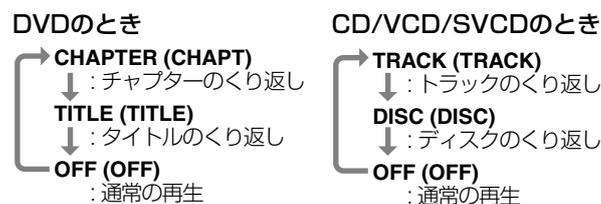
チャプター/タイトル/トラック/ディスク全体をくり返し再生することができます。
・VCD/SVCDをPBC機能で再生中は、A-Bリピート(➡ 19ページ)のみ再生できます。

再生中に　CD VCD SVCD DVD

リピートを押す

テレビ画面とDVDセンターの表示窓にリピート再生のモードが表示されます。
・ボタンを押すごとに、リピート再生のモードが次のように切り換わります。(カッコ内は表示窓の表示です)

DVDのとき
CHAPTER (CHAPT)
↓ : チャプターのくり返し
TITLE (TITLE)
↓ : タイトルのくり返し
OFF (OFF)
: 通常の再生

CD/VCD/SVCDのとき
TRACK (TRACK)
↓ : トラックのくり返し
DISC (DISC)
↓ : ディスクのくり返し
OFF (OFF)
: 通常の再生

通常の再生に戻すには
リピートを押して「OFF」を表示させます。

リジューム再生をする

本システムは、DVDの再生を■(停止)で止めると、その位置を記憶し、そこから続きを再生することができます(リジューム再生)。

「RESUME」表示中に　CD VCD SVCD DVD

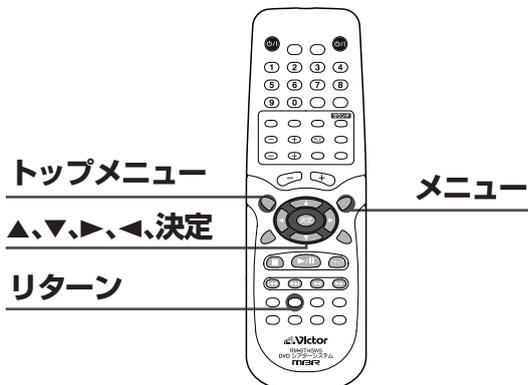
▶/IIを押す

続きから再生が始まります。

はじめから再生するときは
もう一度■(停止)を押してから▶/IIを押します。

お知らせ *リジューム機能について*
ディスクトレイを開けるとリジューム再生は働かなくなります。

ディスクのメニューを使う

DVD/VCD/SVCDでは、再生を始めるとメニュー画面が表示されることがあります。

ディスクのメニューを操作する

メニュー表示中に　CD　VCD PBC　SVCD PBC　DVD

1 ▲、▼、►、◄でメニュー項目を選ぶ

- メニュー項目は、ディスクによって異なります。
- VCD/SVCDのメニューでは**数字**ボタン(1～9、0)や►►I、I◄◄でメニュー項目を選ぶものもあります。

2 決定を押す

ディスクのメニューを表示させる

メニューを持つディスクの再生中にメニューを表示させることができます。

再生中または停止中に　CD　VCD　SVCD　DVD

トップメニューまたはメニューを押す

テレビ画面に「MENU」と表示され、メニュー画面が表示されます。

再生中または停止中に　CD　VCD PBC　SVCD PBC　DVD

リターンを押す

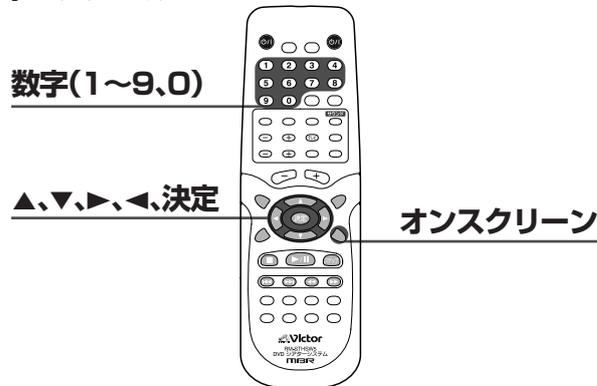
テレビ画面に「MENU」と表示され、メニュー画面が表示されます。

お知らせ *VCD/SVCDのメニューについて*

- VCD/SVCDのメニューは、PBC(プレイバックコントロール)機能のひとつです。PBC機能を使って再生すると、トラックを選んだり、くり返し再生などができなくなります。
- PBC機能を使って再生すると、オンスクリーンバーで切り換えができなくなる項目があります。
- PBC機能を使わないで再生するときは、停止中に**数字**ボタンを使ってトラックを指定し、再生を始めてください。また、**メニュー**を押してPBC機能を「入/切」することもできます。

オンスクリーンバーを使う

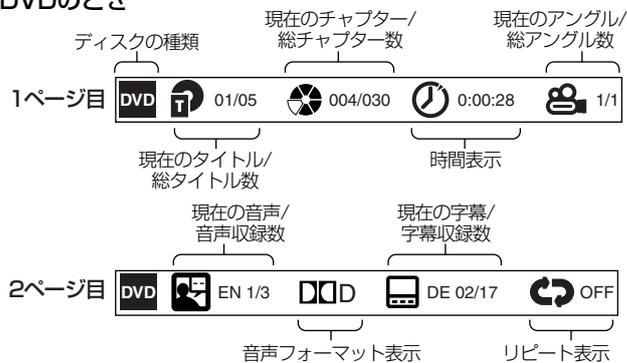
オンスクリーンバーを使って、ディスクの情報を見たり、ディスクを操作することができます。

- ディスクのメニューの表示中は、オンスクリーンバーは表示されません。

オンスクリーンバーを表示させる

停止中または再生中に　CD　VCD　SVCD　DVD

オンスクリーンを押す

- DVD/SVCDでは、もう一度押すと次のメニュー項目が表示されます。
- メニュー項目は、ディスクの種類によって次のように表示されます。

DVDのとき

SVCDのとき

CD/VCDのとき

オンスクリーン表示を消すには

オンスクリーンを1回または2回押します。

オンスクリーンバーの基本操作

例:DVDの字幕を切り換えます。

オンスクリーンバー表示中に　CD　VCD　SVCD　DVD

1 ►、◄で字幕アイコンを選ぶ

選んだアイコンはハイライト表示になります。

DVD EN 1/3 DD DE 02/17 OFF

・音声フォーマット表示は選べません。

2 ▲、▼で字幕を選ぶ

・ボタンを押すごとにアイコン横の数字が変わり、字幕が切り換わります。

3 決定を押す

・**決定**を押さなくても、3秒後に字幕が切り換わります。

再生する場所を数字ボタン(1～9、0)で指定する

オンスクリーンバー表示中に　CD　VCD　SVCD　DVD

1 ►、◄でタイトルアイコン、チャプターアイコン、トラックアイコン、時間表示アイコンのいずれかを選ぶ

2 数字ボタン(1～9、0)で再生したい番号または時間を入力する

番号5を入力するときは、**5**を押します。
番号15を入力するときは、**1➡5**を押します。
時間00:15:23を入力するときは、**1➡5➡2➡3**を押します。
時間01:23:40を入力するときは、
1➡2➡3➡4➡0を押します。
・数字をまちがって入力したときは**キャンセル**を押して、入力し直します。

3 決定を押す

・**決定**を押さなくても、3秒後には指定した場所から再生が始まります。

お知らせ　*時間の指定について*

・DVDではタイトルの総再生時間から、CD/VCD/SVCDではディスクの総再生時間から、再生したい時間を指定することができます。
・DVDによっては、時間を指定することができないことがあります。

2点間をくり返し再生する(A-Bリピート再生)

オンスクリーンバー表示中に　CD　VCD　SVCD　DVD

1 ►、◄でリピートアイコンを選ぶ

DVD EN 1/3 DD DE 02/17 OFF

2 ▲、▼でリピートアイコン横に「A-」を表示させる

DVD EN 1/3 DD DE 02/17 A-

3 決定を押して、開始点(A)を選ぶ

DVDセンターの表示窓に「REPEAT A－」が表示され、リピートアイコン横に「A-?」が表示されます。

4 もう一度決定を押して、終了点(B)を選ぶ

・DVDセンターの表示窓に「REPEAT A－B」が、リピートアイコン横に「A-B」が表示され、A-Bリピート再生が始まります。

通常の再生に戻るには
もう一度決定を押します。

お知らせ　*A-Bリピート再生について*

・開始点と終了点の間は5秒以上必要です。
・複数のタイトル(DVDのとき)やトラック(CD/VCD/SVCDのとき)にまたがって、A-Bリピート再生をすることはできません。
・DVDによっては、A-Bリピート再生ができないことがあります。

MP3/JPEGディスクについて

本システムは、MP3/JPEGファイルを記録したCD-R/CD-RWディスクを再生することもできます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3/JPEGディスク」と呼びます。

MP3/JPEGディスクには、それぞれの曲（トラック）や画像が各ファイルとして記録されています。さらに複数のファイルは、カテゴリー別、アーティスト別などの「フォルダ」としてまとめて分類することができ、パソコンのファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

MP3/JPEGファイルを作るときの注意

ご自分でMP3/JPEGファイルを作成する場合は、以下の点にご注意ください。

MP3ファイルについて

- 本システムでは、次のようなファイルは再生できません。
  – 「.MP3」「.mp3」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字･ひらがな･カナ･全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- MP3ファイル作成時のビットレートは、大きくするほど音質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。本システムでは、再生の音質上、MP3ファイルをビットレート128Kbpsで作成することをお勧めします。

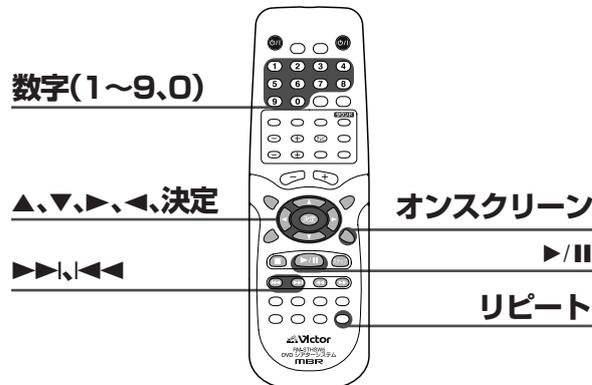
JPEGファイルについて

- 本システムでは、次のようなファイルは再生できません。
  – ベースライン方式以外のフォーマットで作成されているもの
  – 「.jpg」「.jpeg」「.JPG」「.JPEG」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字･ひらがな･カナ･全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- ファイル読み込み速度上、解像度640×480以内のファイルをお使いになることをお勧めします。

ご注意

・ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。
・MP3作成ソフトとCD-R/CD-RW作成ソフトによっては、本システムで再生できないこともあります。

MP3/JPEGディスクを再生する

MP3/JPEGディスクは、ディスク読み取り後すぐに再生が始まります。
・JPEGファイル再生時間はファイルサイズによります。
・ファイルは連続的に再生されます。

コントロール画面から再生する

本システムでは、テレビ画面に表示されるコントロール画面でファイルを選んで再生することができます。

・フォルダリストで選ばれているフォルダの内容は、ファイルリストに表示されます。ただし、選択番号「0」のフォルダは、階層を1つ上に移動する機能を持った特別なフォルダです。
・JPEGファイル再生中は、コントロール画面は表示されません。
・MP3ファイル再生中は、コントロール画面が表示されますが、画面上での操作はできません。

停止中に

▲、▼、►、◄または数字ボタン(1～9、0)でファイルやフォルダを選び決定を押す

ファイルを選んだときは、再生が始まります。
フォルダを選んだときは、ファイルリストに内容が表示されます。
・選択番号「0」のフォルダを選んだときは、1つ上の階層に移動します。

お知らせ *「ROOT」フォルダについて*

「ROOT」フォルダを選ぶと、最も上の階層にあるフォルダやファイルを表示させることができます。

その他の操作をする

■ ファイルを選ぶ

再生中に

►►|または|◄◄を押す

►►|: 次のファイルの頭に移動します。
|◄◄: 前または今のファイルの頭に移動します。

■ 再生を一時停止させる

再生中に

►/❚❚を押す

・ JPEG画像をゆっくり見たいときに便利です。

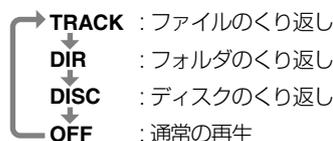
通常の再生に戻すには
►/❚❚を押します。

■ くり返し再生をする
ファイル/フォルダ/ディスク全体をくり返し再生することができます。

再生中に

リピートを押す

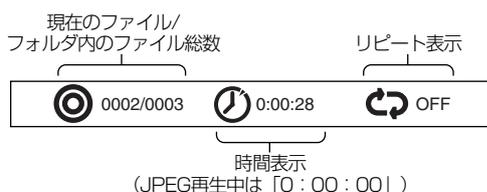
テレビ画面とDVDセンターの表示窓にリピート再生のモードが表示されます。
・ボタンを押すごとに、リピート再生のモードが次のように切り換わります。

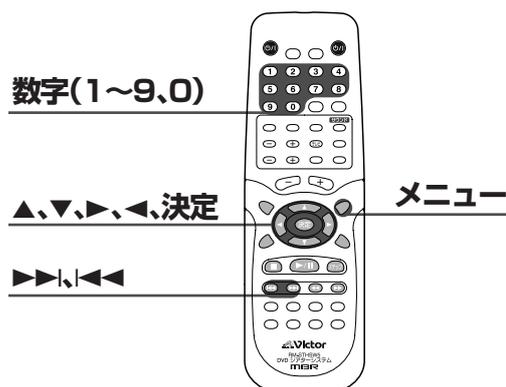
TRACK ：ファイルのくり返し
↓
DIR ：フォルダのくり返し
↓
DISC ：ディスクのくり返し
↓
OFF ：通常の再生

・オンスクリーンバーのリピート表示も同じように切り換わります。

通常の再生に戻すには
リピートを押して「OFF」を表示させます。

■ オンスクリーンバーを使う
フォルダやファイルの情報を確認することができます。
・MP3/JPEGディスク再生中は、アイコンを選んで操作することはできません。

停止中または再生中に

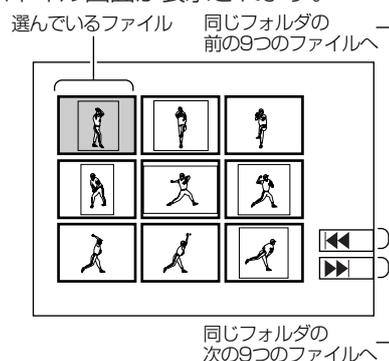
オンスクリーンを押す

オンスクリーン表示を消すには
オンスクリーンを押します。

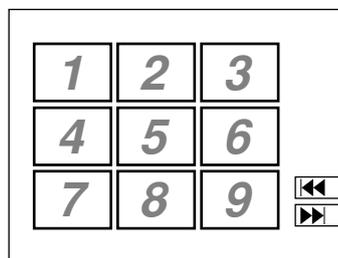
JPEGファイルの特別な再生

サムネイル画面から選んで再生する

小さなJPEG画像（サムネイル）を9つずつ表示させて、素早くお好みの画像を選ぶことができます。

JPEG再生中に

1 メニューを押す

サムネイル画面が表示されます。

2 ▲、▼、►、◄を押して画像または►►|、|◄◄を選び、決定を押す

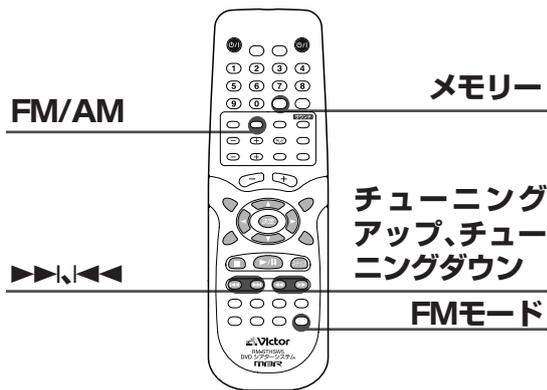
・サムネイル画像には下のように左上から番号が割り振られています。（表示はされません）
この番号の画像を、**数字**ボタン（1〜9）で選ぶこともできます。

画像を回転させる

再生中の画像を回転させることができます。

JPEG再生中に

▲、▼、►、◄を押す

・ ►：時計回りに90度
・ ◄：反時計回りに90度
・ ▲：上下反転
・ ▼：左右反転

ラジオの操作

聞きたい放送局を選ぶ

1 FM放送またはAM放送をソース(音源)に選ぶ

リモコンでは、**FM/AM**を押します。
- ボタンを押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り換わります。
- DVDセンターでは、**SOURCE**をくり返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させます。

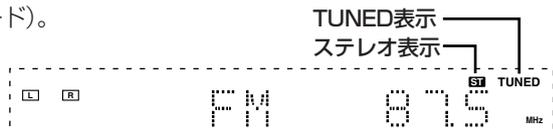
2 周波数を調節する

リモコンでは、**チューニングアップ**または**チューニングダウン**を押します。
- DVDセンターのボタンを使うときは、▶▶Iまたは I◀◀を押します。■(停止)を押すと「PRESET」が表示されて、プリセット選局ができます。周波数を調節するときは、もう一度■(停止)を押して「MANUAL」と表示させます。
- ボタンを押し続けると周波数が自動で変化し始めます。放送局を受信すると自動で周波数が停止します。
- テレビの音声は、周波数が合わないためうまく受信できません。これは故障ではありません。

選局できる周波数の範囲は次の通りです。

FM放送	0.1MHzずつ	:76.0MHz～108.0MHz
AM放送	9kHzずつ	:531kHz～1,629kHz

お知らせ *受信表示について*

放送を受信するとTUNED(チューンド)表示が点灯します。FMステレオ放送を受信すると**ST**(ステレオ)表示も点灯します(オートステレオモード)。

お知らせ *FM放送の受信モードについて*

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときなどに、雑音の少ないモノラル音声で聞くことができます。

リモコンのFMモードを押します。
- 押すごとに、「STEREO」と「MONO」が交互に表示されます。
  STEREO : ステレオ音声を聞くとき選びます。
  MONO : ステレオ音声を雑音の少ないモノラル音声で聞くとき選びます。

放送局を記憶させて選ぶ

放送局を一度記憶させておくと、次からは簡単に選ぶことができます。
- FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶させることができます。

1 記憶させたい放送局を選ぶ

2 メモリーを押す

DVDセンターの表示窓に**PRGM**表示が点灯します。

3 ▶▶Iまたは I◀◀を押して記憶させたいプリセット番号を選ぶ

4 メモリーを押す

PRGM表示が消え、放送局が記憶されます。
- **メモリー**を押す前に**PRGM**表示が消えたときは、手順***2***からやり直してください。

5 手順*1*～*4* をくり返して他の放送局を記憶させる

記憶させた放送局を選ぶには

ソース(音源)がラジオのときに、▶▶Iまたは I◀◀を押します。
- DVDセンターのボタンを使うときは、■(停止)を押して「PRESET」と表示させてから、▶▶Iまたは I◀◀を押します。周波数を調節するときは、もう一度■(停止)を押して「MANUAL」と表示させます。

記憶させた放送局を削除するには

同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、前の放送局の記憶は消えます。

音質・スピーカー音量の調節

サラウンドを楽しむ

本システムでは、次のサラウンドをお楽しみいただけます。
・マルチチャンネルサラウンド（ドルビーデジタル*[1]、DTS*[2]、MPEG-2 AAC*[3]）
・ドルビープロロジック II *[1]（プロロジック II ムービー、プロロジック II ミュージック）、ドルビープロロジック

■ マルチチャンネルサラウンド

マルチチャンネルサラウンドは、主にDVDや衛星デジタル放送で使われているサラウンドで、映画館や劇場のような音響効果をご家庭で再現します。

本システムでは、次の音声フォーマットの信号を入力すると、自動的に判別しサラウンドを「入」にします。

音声フォーマット	表示	
	DVDセンター	オンスクリーンバー
ドルビーデジタル	DIGITAL	D
DTS	dts	dts
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC	AAC

・MPEG-2 AACは、BSデジタルチューナーなどを本システムの光デジタル入力端子に接続し、ソース（音源）を「DIGITAL IN」にしてお楽しみください。

■ ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック IIは、CDやラジオなどの2チャンネルソース（音源）を最大5.1チャンネルにしてお楽しみいただけるサラウンドです。次の4つのモードがあります。

- **プロロジック II ムービー(PLII MOVIE)**
  ：映画ソフト向けの5.1チャンネルサラウンド
- **プロロジック II ミュージック(PLII MUSIC)**
  ：音楽ソフト向けの5.1チャンネルサラウンド
- **プロロジック II マトリクス(PLII MATRIX)**
  ：モノラル音声向けの5.1チャンネルサラウンド
- **プロロジック(PRO LOGIC)**
  ：ドルビーサラウンドソフト向けの4.1チャンネルサラウンド(左右のリアスピーカーは同じ音声になります)

ドルビープロロジック IIサラウンドを使っているときは、DVDセンターの表示窓にPRO LOGIC II表示が点灯します。

本システムでは、次の音声のとき、ドルビープロロジック IIサラウンドをお楽しみいただけます。

ラジオ、CD、MP3ディスク、音声入力端子（AUDIO IN/AUX）に接続した外部機器

また、2チャンネルのマルチチャンネル信号のときもお楽しみいただけます。

お知らせ *ドルビープロロジック IIについて*

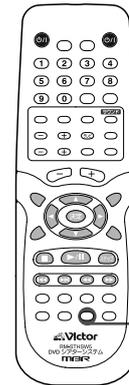
MPEG-2 AACのモノラル、2チャンネル信号のときは働きません。

マルチチャンネルサラウンドを使う

ドルビーデジタル、DTSのマルチチャンネルDVDを再生するときやMPEG-2 AACのマルチチャンネル（外部接続のBSデジタルチューナーなど）の信号が入力されると、自動的にサラウンドが「入」になります。

このとき「切」にすることはできません。

ドルビープロロジックIIを使う

ソース（音源）が2チャンネルの音声のとき、5.1チャンネルサラウンドにします。
・プロロジックIIモードは、マルチチャンネル信号のとき働きません。

プロロジックIIを押す

・ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り換わります。

PLII MUSIC
↓
PLII MOVIE
↓
PLII MATRIX
↓
PRO LOGIC
↓
STEREO （プロロジックIIを使いません）

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*[2] DTSおよびDTS Digital Surroundは、デジタル･シアター･システムズ社の商標です。

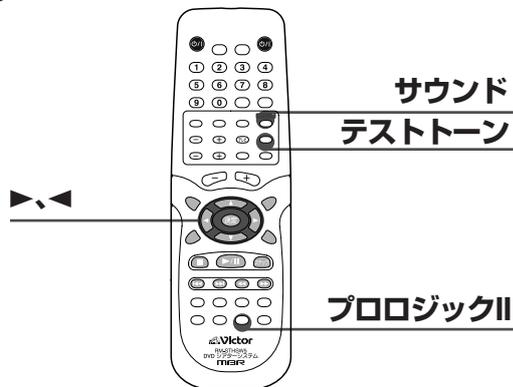
*[3] 米国パテントナンバー

5,848,391;　5,291,557;　5,451,954;
5,400,433;　5,222,189;　5,357,594;
5,752,225;　5,394,473;　5,583,962;
5,274,740;　5,633,981;　5,297,236;
4,914,701;　5,235,671;　07/640,550;
5,579,430;　08/678,666;　98/03037;
97/02875;　97/02874;　98/03036;
5,227,788;　5,285,498;　5,481,614;
5,592,584;　5,781,888;　08/039,478;
08/211,547;　5,703,999;　08/557,046;
08/894,844

音質・スピーカー音量を調節する

つづき

スピーカー音量を調節する

センタースピーカー、左右リアスピーカー、サブウーハーの出力レベル、バス/トレブル、スピーカーの遅延設定を調節します。

1 サウンドをくり返し押して、項目を選ぶ

・ボタンを押すごとに次のように項目が切り換わります。

-00 F -00 :フロントスピーカーバランス調節
-00 R -00 :リアスピーカーバランス調節
CEN 00dB :センタースピーカー出力調節
REAR 00dB :リアスピーカー出力調節
S/W 00dB :サブウーハー出力調節
BASS 00dB :バス(低音)調節
TREB 00dB :トレブル(高音)調節
C-DLY 0MS :センタースピーカー遅延設定
R-DLY 0MS :リアスピーカー遅延設定

・ソース(音源)が「DVD/CD」のときは、テレビ画面に調節バーが表示されます。
・「C-DLY」はマルチチャンネルサラウンドが働いているときのみ表示されます。
・「R-DLY」はサラウンドが「切」のときは表示されません。

2 ►、◄を押して調節・設定する

項目ごとの調節・設定の範囲は次の通りです。

項目	調節内容
フロントスピーカーバランス調節	左右のフロントスピーカーの一方について、「−00」から「−06」、「OFF」までの間で音量調節をします。
リアスピーカーバランス調節	左右のリアスピーカーの一方について、「−00」から「−06」、「OFF」までの間で音量調節をします。
センタースピーカー音量調節	センタースピーカーについて、「−06」から「+06」までの間で音量調節をします。
リアスピーカー音量調節	リアスピーカーについて、「−06」から「+06」までの間で音量調節をします。
サブウーハー音量調節	サブウーハーについて、「−06」から「+06」までの間で音量調節をします。
バス(低音)調節	「−10」から「+10」まで2ずつ音量調節をします。
トレブル(高音)調節	「−10」から「+10」まで2ずつ音量調節をします。
センタースピーカー遅延設定	スピーカー配置に応じて、遅延設定を「0」から「5」まで設定します。
リアスピーカー遅延設定	スピーカー配置に応じて、遅延設定を「0」から「15」(PLII MOVIEとPRO LOGICでは「10」から「25」)まで設定します。この設定は、サラウンドのモードごとに記憶させることができます。

3 手順1、2をくり返して他の項目を調節・設定する

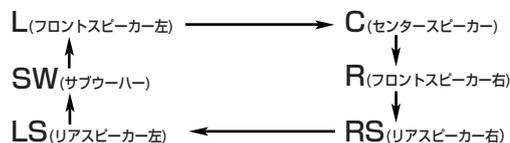
・5秒間操作をしないと、項目の表示は消えます。

■ テストトーンを使う

テストトーンを使ってセンタースピーカーや左右のリアスピーカーの出力を調節することができます。
・テストトーン、はソース(音源)が「DVD/CD」で、ディスクの再生が停止しているときのみ使えます。

1 プロロジックIIを押して、「PLII MUSIC」を表示させる

2 テストトーンを押す

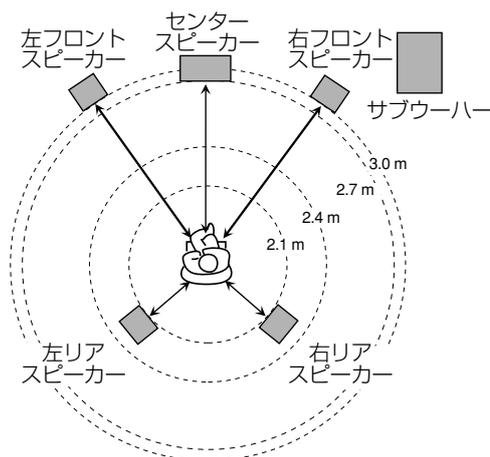
表示窓に「TEST TONE」と表示されます。
・テストトーンは次の順序で発生します。

3 ►、◄を押して調節する

各スピーカーからテストトーンが出ているときに調節できます。
「C」:センタースピーカー
「RS」:右リアスピーカー
「LS」:左リアスピーカー
「SW」:サブウーハー

4 テストトーンを押す

テストトーンが出なくなり、調節は終わりです。

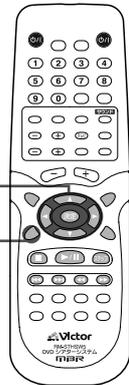
■ 遅延設定について

センタースピーカーとリアスピーカーがフロントスピーカーより近い位置にあるとき、センタースピーカーとリアスピーカーの音のタイミングを遅らせることで、サラウンドの効果をより適切にする設定です。
下の図では、センタースピーカーが30cm近く、リアスピーカーが90cm近いところにあるので、センタースピーカーを「1MS(ミリ秒)」、リアスピーカーを「3MS」に設定します。(視聴位置に30cm近づくごとに遅延設定を「1MS」ずつ大きくしていきます)

設定メニュー

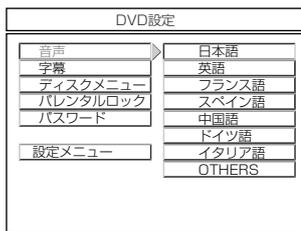
設定メニューについて

設定メニューは、初期設定メニューとDVD設定メニューの2つのメニューで構成されています。

・ソース(音源)が「DVD/CD」で、ディスク停止中に限り、設定メニュー画面を表示できます。

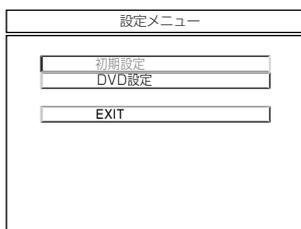
・リジューム機能が働いているときは、DVD設定メニューを選ぶことはできません。■(停止)を押してリジューム機能を解除してください。

設定メニューの構成

初期設定　：TVタイプ、画面表示言語、ブラックレベル、DRC(ダイナミックレンジ設定)の4項目から構成されています。

DVD設定　：音声、字幕、ディスクメニュー、パレンタルロックの4項目とパスワード設定から構成されています。

設定メニューの基本操作

ソース(音源)が「DVD/CD」で、ディスク停止中に

1 選択/時間を押す

テレビ画面に設定メニューが表示されます。

2 ▲、▼を押して設定したいメニューを選ぶ

例：「DVD設定」を選んだとき

3 決定を押す

テレビ画面に選ばれたメニューの設定画面が表示されます。

4 ▲、▼を押して設定したい項目を選ぶ

例：「字幕」を選んだとき

5 ►を押し、▲、▼でお好みの設定を選ぶ

6 決定を押す

7 選択/時間を押して、設定メニューを消す

設定を続けるときは
◄を押して項目を選びます。

別のメニューを選ぶときは
「設定メニュー」を選び決定を押します。

設定メニュー

つづき

初期設定の項目

- TVタイプ
- 画面表示言語
- ブラックレベル
- DRC(ダイナミックレンジコントロール)

TV タイプ

DVDの映画ソフトの多くは、縦横比16対9の横長(ワイド)テレビ用の映像が収録されています。この横長(ワイド)テレビ用の映像を、ご覧になるテレビのタイプに合わせることができます。

「ワイド」：横長(ワイド)テレビで見るときに選びます。

「レターボックス」：縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。上下に黒い隙間がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。

「パンスキャン」：縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。左右両端が切り取られる状態で映ります。上下に黒い隙間は映りません。
- パンスキャンを選んでも、ディスクが対応していないときは、レターボックスになります。

画面表示言語

設定メニューの表示言語を切り換えることができます。

日本語、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語から選べます。

- 日本語に設定してもアルファベットで表示される項目もあります。

ブラックレベル

画面の黒レベルを調節します。

オン、オフから選べます。

DRC(ダイナミックレンジ)

最大音声と最小音声の差を圧縮することができます。
この機能はドルビーデジタルの再生時のみ働きます。深夜など音量を大きくできないときに便利です。

FULLから**OFF**までの9段階から選べます。**FULL**に近づくほど圧縮の度合いが大きくなります。

DVD設定の項目

- 音声
- 字幕
- ディスクメニュー
- パレンタルロック
- パスワード

音声

DVDには複数の音声が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、あらかじめどの音声で再生するか決めておくことができます。

日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ドイツ語、イタリア語、OTHERS(「言語コード表」➡ **27**ページ)から選べます。

字幕

外国映画などのDVDには複数の言語による字幕が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、あらかじめどの言語の字幕で再生するかを決めておくことができます。

日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ドイツ語、イタリア語、OTHERS(「言語コード表」➡ **27**ページ)から選べます。

ディスクメニュー

DVDには複数の言語によるメニュー画面が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、あらかじめどの言語のメニューで再生するかを決めておくことができます。

日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ドイツ語、イタリア語、OTHERS(「言語コード表」➡ **27**ページ)から選べます。

パレンタルロック(視聴レベル制限)

DVDには、視聴に際し過激なシーンを見せないように設定できるパレンタルロック機能に対応しているものがあります。
パレンタルロックの設定では、視聴レベルを設定/変更するのにパスワードが必要となります。(➡ **27**ページ)
視聴レベルの設定は「1」がもっとも制限が厳しく、「なし」は視聴制限をしません。

パスワード

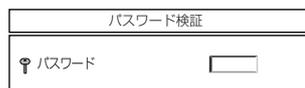
パレンタルロックのパスワードを変更するときに選びます。
詳しくは、**27**ページをご覧ください。

パレンタルロックを設定する

この機能は対応するDVDに対してのみ有効です。

ソース(音源)が「DVD/CD」で、ディスク停止中に

1 DVD設定メニューの項目「パレンタルロック」でお好みの視聴レベルを選び、決定を押す

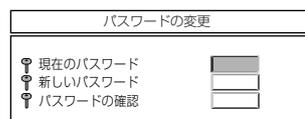
パスワード確認画面が表示されます。

2 数字ボタン(1～9、0)で4桁の数字を入力し、決定を押す

・出荷時の設定は「7890」です。

パスワードを変更する

ソース(音源)が「DVD/CD」で、ディスク停止中に

1 DVD設定メニューの項目「パスワード」で「変更」を選び、決定を押す

パスワード変更画面が表示されます。

2 数字ボタン(1～9、0)で現在のパスワードを「現在のパスワード」欄に入力する

・出荷時の設定は「7890」です。
・パスワードを間違えると、4桁目の入力後、数字が消えます。

3 数字ボタン(1～9、0)で新しいパスワードを「新しいパスワード」欄に入力する

4 確認のため、もう一度新しいパスワードを「パスワードの確認」欄に入力する

・パスワードを間違えると、手順**3**に戻ります。

パレンタルロックを一時的に解除する

本システムのパレンタルロックの設定より厳しい設定のDVDを再生しようとすると、テレビ画面に「INPUT PASSWORD」(パスワードを入力してください)と表示されます。
このようなときは、正しいパスワードを入力するまでそのDVDを再生することはできません。

言語コード表

「音声」「字幕」「ディスクメニュー」で「OTHERS」を選ぶと、次の表のコードで言語を選べます。

コード	言語
1027	アファル語
1028	アブハズ語
1032	アフリカーンス語
1039	アムハラ語
1044	アラビア語
1045	アッサム語
1051	アイマラ語
1052	アゼルバイジャン語
1053	バシキール語
1057	ベラルーシ語
1059	ブルガリア語
1060	ビハール語
1069	ビスラマ語
1066	ベンガル語
1067	チベット語
1070	ブルターニュ語
1079	カタロニア語
1093	コルシカ語
1097	チェコ語
1103	ウェールズ語
1105	デンマーク語
1109	ドイツ語
1130	ブータン語
1142	ギリシャ語
1144	英語
1145	エスペラント語
1149	スペイン語
1150	エストニア語
1151	バスク語
1157	ペルシャ語
1165	フィンランド語
1166	フィジー語
1171	フェロー語
1174	フランス語
1181	フリジア語
1183	アイルランド語
1186	スコットランド語
1194	ガリシア語
1196	グアラニー語
1203	グジャラート語
1209	ハウサ語
1217	ヒンディー語
1226	クロアチア語
1229	ハンガリー語
1233	アルメニア語
1235	インターリンガ(国際語)
1239	インターリング
1245	イヌピア語
1248	インドネシア語
1253	アイスランド語
1254	イタリア語
1257	ヘブライ語
1261	日本語
1269	イディッシュ語
1283	ジャワ語
1287	グルジア語
1297	カザフ語
1298	グリーンランド語
1299	カンボジア語
1300	カナラ語
1301	韓国語
1305	カシミール語
1307	クルド語
1311	キルギス語
1313	ラテン語
1326	リンガラ語
1327	ラオス語
1332	リトアニア語
1334	ラトビア語
1345	マダガスカル語
1347	マオリ語
1349	マケドニア語
1350	マラヤーラム語
1352	モンゴル語
1353	モルダビア語
1356	マラーティー語
1357	マレー語
1358	マルタ語
1363	ビルマ語
1365	ナウル語
1369	ネパール語
1376	オランダ語
1379	ノルウェー語
1393	オクシタン語
1403	オロモ語
1408	オリヤー語
1417	パンジャブ語
1428	ポーランド語
1435	パシト語
1436	ポルトガル語
1463	クエチュア語
1481	レトロアン(ス)語
1482	キルンディ語
1483	ルーマニア語
1489	ロシア語
1491	キヤーワンダ語
1495	サンスクリット語
1498	シンド語
1501	サングホ語
1502	セルボクロアチア語
1503	シンハラ語
1505	スルバキア語
1506	スロベニア語
1507	サモア語
1508	ショナ語
1509	ソマリ語
1511	アルバニア語
1512	セルビア語
1513	シスワティ語
1514	セト語
1515	スーダン語
1516	スウェーデン語
1517	スワヒリ語
1521	タミル語
1525	テグル語
1527	タジク語
1528	タイ語
1529	ティグリニャ語
1531	トルクメン語
1532	タガログ語
1534	セツワナ語
1535	トンガ語
1538	トルコ語
1539	ヴォンガ語
1540	タタール語
1543	トウィ語
1557	ウクライナ語
1564	ウルドゥー語
1572	ウズベク語
1581	ベトナム語
1587	ヴォラピューク語
1613	ウォロフ語
1632	コーサ語
1665	ヨルバ語
1684	中国語
1697	ズールー語

故障かな?と思う前に

故障かな?と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ **30**ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「切」になる。	お休みタイマーが設定されている。	お休みタイマーを解除する。(➡ **15**ページ)
システムが正しく働かない。		電源を「切」にして、電源プラグをコンセントからいったん抜き、差し込み直して電源を入れ直す。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが働かない。	DVDセンターから離れすぎている。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ **12**ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ **12**ページ)
	リモコン受光部に日光が直接当たっている。	直射日光をさえぎる。
	リモコンがテレビ操作モードになっている。	DVD、FM/AM、AUXのいずれかを押して、テレビ操作モードを解除する。(➡ **13**ページ)
リモコンでテレビが操作できない。	入力したメーカーのコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力し直す。(➡ **13**ページ)
	リモコンがテレビ操作モードになっていない。	**コントロールテレビボタン**を押して、テレビ操作モードにする。(➡ **13**ページ)

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、DVDセンターの電源を入れ直す。
	オーディオコードが正しく接続されていない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**を押して消音機能を解除する。(➡ **15**ページ)
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ **7**ページ)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードが正しく接続されていない。	正しく接続する。
	バランス調節で一方が「OFF」になっている。	バランス調節を適切に行う。(➡ **24**ページ)
リアスピーカーから音が出ない。	ワイヤレス受信機の電源が「切」になっている。	電源を「入」にする。(➡ **14**ページ)
	リアスピーカーが正しく接続されていない。	正しく接続する。(➡ **10**ページ)
	ワイヤレス受信機と通信ができていない。	ワイヤレス受信機をリセットする。(➡ **14**ページ)
	サラウンドが「入」になっていない。	マルチチャンネルソフトを再生するかプロロジックIIを使用する。(➡ **23**ページ)
音がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ **7**ページ)

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードが正しく接続されていない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	プログレッシブ非対応のテレビを接続しているが、本システムのスキャンモードがプログレッシブスキャンモードに設定されている。	本システムのスキャンモードをインターレーススキャンモードに設定する。(➡ **13**ページ)
映像がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ **7**ページ)
	DVDセンターとテレビの間にビデオデッキを接続している。	DVDセンターとテレビを直接接続する。

ディスクについて

症　状	原　因	処　置
テレビ画面に「WRONG REGION」と表示される。	本システムとディスクのリージョンコード(再生可能地域番号)が異なっている。	ディスクを取り換える。
再生ができない。 (DVDセンターの表示窓に「ERROR」と表示されて、再生が始まらない。	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本システムで再生できないディスクを再生しようとしている。	ディスクを確認する。(➡ ***7***ページ)
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってDVDセンターの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、1〜2時間してからディスクを入れる。
ディスクを再生するとパスワード画面が表示される。	パレンタルロックが設定されている。	パレンタルロックの設定を変更する。(➡***27***ページ)
音声/字幕が切り換えられない。	再生中のディスクに複数の言語が収録されていない。	そのディスクでは切り換えられません。
	再生中のディスクに字幕が収録されていない。	そのディスクでは切り換えられません。
字幕が出ない。	「字幕」の設定が「OFF」になっている。	「字幕」を正しく設定する。(➡ ***16***ページ)
アングルが切り換えられない。	再生中のディスクに複数のアングル(マルチアングル)が収録されていない。	そのディスクでは切り換えられません。
再生されないファイルがある。	MP3ファイルやJPEGファイルのファイル名が正しくない(拡張子がないなど)ファイルがディスクに入っている。	ディスクを確認し、正しいファイル名に直す。(➡ ***20***ページ)

ラジオについて

症　状	原　因	処　置
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

28ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	DVDデジタルシアターシステム
型名	TH-SW5
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

• 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内(ビクターサービスエンジニアリング株式会社)

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011) 898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166) 61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157) 25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154) 24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155) 24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017) 723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178) 44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172) 28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019) 637-0121	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197) 22-2773	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018) 824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186) 43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182) 32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022) 287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023) 642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234) 26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024) 952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246) 27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越			
群馬	前橋 S.C.	(027) 255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第二棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028) 638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029) 246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043) 246-2588	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(04) 7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047) 353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03) 5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03) 3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03) 3727-9385	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426) 46-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03) 3874-5231	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048) 654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048) 553-5105	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045) 651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044) 975-1879	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463) 36-2160	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042) 776-2052	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046) 234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055) 237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025) 242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258) 24-8391	長岡市下々条2-1366-1
長野	長野 S.C.	(026) 221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263) 25-9165	松本市庄内2-4-21
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054) 282-4141	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津 S.S.	(055) 922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053) 421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564) 25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532) 64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058) 274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593) 52-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059) 229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北陸			
富山	富山 S.S.	(076) 425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.S.	(076) 269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776) 53-6916	福井市開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077) 582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075) 644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773) 22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.C.	(0742)35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072) 254-2881	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06) 6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073) 472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739) 22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078) 252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792) 34-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086) 243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082) 243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084) 931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083) 973-3708	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834) 27-1331	周南市野上町2-35
島根	山陰ビクター販売（株） 松江 S.C.	(0852) 31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売（株） 鳥取 S.S.	(0857) 23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087) 866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088) 622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088) 882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089) 923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895) 20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092) 431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942) 39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093) 921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095) 862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956) 33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097) 543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096) 353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985) 24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982) 35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099) 282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098) 898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。 0704

●略号について
S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

DVDセンター(XV-THSW5)

再生可能ディスク	DVDビデオ、DVD-R/-RW(ビデオフォーマット)、スーパービデオCD、ビデオCD、オーディオCD、CD-R/RW(オーディオCD、ビデオCD、MP3ディスク、JPEGディスク)
映像信号方式	JEITA標準、NTSCカラーテレビジョン方式

【映像特性】

水平解像度	480本以上
S/N比	68dB
	出力レベル/インピーダンス
映像(コンポジット)出力	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
S映像出力　Y出力:	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
C出力:	0.286V(p-p)/75Ω
D1/D2映像出力	
Y出力:	1.0V(p-p)/75Ω
P_B/P_R出力:	0.7V(p-p)/75Ω

【オーディオ特性】

全高調波ひずみ率	0.02%(JEITA)
アナログ音声入力	入力感度/インピーダンス
AUX IN:	500mV/47kΩ
デジタル音声入力	
DIGITAL IN OPTICAL:	−24dBm 〜 −15dBm

【アンプ部】

実用最大出力	
フロント:	30W+30W(10% THD)
センター:	30W(10% THD)
サブウーハー:	55W(10% THD)
出力端子(適合インピーダンス)	
フロント×2:	(最小6Ω)
センター×1:	(最小6Ω)
サブウーハー×1:	(最小3Ω)

【FMチューナー部】

受信周波数	76.0MHz〜108.0MHz
アンテナ	75Ω不平衡型

【AMチューナー部】

受信周波数	531 kHz〜1,629 kHz
アンテナ	外部アンテナ端子(ループアンテナ)

【無線部】

使用周波数	2402MHz〜2424MHz(23チャンネル/AFS変調方式)
見通し通信距離	1m〜10m

【その他】

スリープタイマー	10、20、30、60、90、120、150分
電　源	AC 100V、50Hz/60Hz共用
消費電力	電源「入」時　110W
	電源「切(待機)」時　0.9W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	360mm×65mm×410mm
質　量	6.2kg

ワイヤレス受信機(RX-THSW5)

【アンプ部】

実用最大出力　リア:	30W+30W(10% THD)
出力端子(適合インピーダンス)	
リア×2:	(最小6Ω)

【無線部】

使用周波数	2402MHz〜2424MHz(23チャンネル/AFS変調方式)
見通し通信距離	1m〜10m

【その他】

電　源	AC 100V、50Hz/60Hz共用
消費電力	電源「入」時　50W
	電源「切」時　0W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	170mm×380mm×125mm
質　量	1.6kg

サブウーハー(SP-WSW5)

形　式	1ウェイバスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー	16cm　コーン型×1
最大入力	55W(JIS)
定格インピーダンス	3Ω
再生周波数帯域	25Hz〜200Hz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	140mm×352mm×410mm
質　量	5.0kg

フロントスピーカー/リアスピーカー(SP-THSW5F)

形　式	1ウェイバスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー	8cm　コーン型×1
最大入力	30W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	90Hz〜20kHz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	84mm×202mm×95mm
質　量	0.8kg

センタースピーカー(SP-THSW5C)

形　式	1ウェイバスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー	8cm　コーン型×1
最大入力	30W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	90Hz〜20kHz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	200mm×86mm×95mm
質　量	0.7kg

- 本システムの仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による数値です。

用語解説

アルファベット

D映像端子
コンポーネント映像を1本のコードで接続できる端子です。
本システムは、インターレース(525i)が扱えるD1映像とプログレッシブ(525p)も扱えるD2映像に対応しています。

JPEG(Joint Photographic coding Experts Group)
静止画情報圧縮フォーマットの一つで、インターネットやデジタルカメラなどに広く利用されています。

LPCM(リニアPCM)音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮をまったくしない方式のことです。

MP3(MPEG Audio layer 3)
音声情報圧縮の国際規格で、音声データを元の音質を大きく損なうことなく、約1/10に圧縮することができるフォーマットです。

PBC(プレイバックコントロール)
VCD(バージョン2.0)やSVCDに記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

あ

インターレーススキャン(飛び越し走査)
従来のテレビで用いられているスキャンモードで、それぞれのフレーム情報を半分に「間引き」して1つのフィールド情報とし、連続した2つのフィールドを使って1つの画面(フレーム)を作る方法です。

か

カーソル
オンスクリーンメニューや初期設定メニューなどの設定を変更するポイントのことをいい、リモコンの▲、▼、►、◄を使ってポイントを移動させます。

片面ディスク
DVDのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

コンポジット
輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント
光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式のことです。R/G/B、$Y/P_B/P_R$、$Y/C_B/C_R$などの信号形式があります。

さ

サラウンド
視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

た

タイトル/チャプター
DVDビデオは、タイトルとチャプターから構成されています。タイトル内には複数のチャプターが含まれます。映画ソフトの場合、チャプターはシーンごとに作られています。

ディスクメニュー
DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ビットレート
デジタルデータの転送速度のことです。一般的に、この値が大きいほど画質や音質は良くなります。

は

パレンタルロック
映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか(たとえば教育上好ましくないシーンなど)を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、本システムに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、本システムが自動的に判断し再生する機能です。

プログレッシブスキャン(順次走査)
すべてのフレーム情報を1つのフィールドで映し出します。したがって映像情報が従来方式に比べて倍になり、チラツキの少ない高密度の画像になります。

ま

マルチアングル(アングル)
一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能です。

マルチチャンネル
DVDビデオやDVDオーディオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

ら

リージョンコード(再生可能地域番号)
DVDビデオの再生可能地域を限定するコードです。DVDビデオとDVDプレーヤーの両方のリージョンコードが一致しないと再生できません。

両面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のものです。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス
4:3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法です。
画面が郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

TH-SW5　DVD デジタルシアターシステム　取扱説明書

別売りのオプション品

- 光デジタルケーブル　: XN-110SA
- オーディオコード（RCAピンプラグコード）　: CN-510E
- ビデオコード（映像接続用コード）　: VX-110E
- Sビデオコード　: VC-S110E
- D端子コード　: VX-DS210（Dプラグ～ピンプラグ×3）
  : VX-DS110（Dプラグ～Dプラグ）

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
（品番は変更されることがあります）

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
31 ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120－2828－17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0704TMMMDWSAM